

中学校

東京・多摩市立聖ヶ丘中学校①

新学習指導要領 実践ファイル

〔14〕

特別の教科 道徳

本校ではSDGsを念頭に置き、コミュニティ・スクールとして家庭・地域との連携協力を「特別の教科 道徳」の授業に生かしている。

毎年、美化給食委員の呼び掛けで、有志の生徒による地域清掃を行っている。昨年度も多くの生徒が参加した。

その際に一緒に活動した地域の方から、実は早朝・夕方にごみ拾いをしているというお話を聞いた。理由は防犯のため。きれいな町には犯罪が少ないということだった。

地域・家庭との連携基に教材作成

その話を初めて知った生徒が多く、「町を自分たちできれいにしていこう」という意識がさらに高まっていた。

これを有志の生徒以外にも伝えたいと思い、SDGsの「住み続けられるまちづくりを」を「パートナーシップで目標を達成しよう」という観点から、道徳の教材「ひじり坂をあがると…」を作成し、道徳科の授業を実施した。生徒の感想を学年便りに掲載し、保護者にも地域のことや生徒が考えたことを伝えた。



教材「ひじり坂をあがると…」より(絵・くどうのぞみ)

授業後のアンケート(対象88人)によると、以下の回答が得られた。

Q 「社会参画、公共の精神」というテーマで道徳の授業を受けるとき、二つの教材「ひじり坂をあがると…」と「教科書に掲載されている教材○○」どちらがより考え

やすいですか。

A 「ひじり坂…」(57人)、「どちらでもよい」(22人)、「教科書」(9人)

「ひじり坂をあがると…」を選んだ生徒の理由として「一番多かった回答は「自分たちの学校で実際に行われている地域清掃の話な

で、自分のこととして考えやすいから」(52人)であり、次に「自分たちの地域の話が教材になっていることで、教科書に載っている話より現実味があるから」(44人)だった。

新学習指導要領解説「特別の教科 道徳」では、家庭や地域社会との連携による指導において、「道徳科の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに家庭や地域の人々、各分野の専門家等の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること」と示されている。

生徒にとっても家庭や地域社会との連携による授業を受けることで、より自分ごととして考えることにつながるといことが分かった。今後も教科書の使用と併せて実践を重ねていきたい。

(三浦摩利指導教諭)